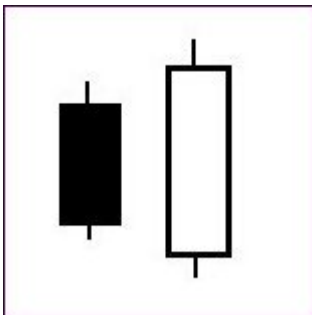


トレード試験の解説

先日は短期トレードを成功させる4つのポイントをお読み頂きありがとうございました。前回のレポートでは「第1のポイント 誰も教えてくれない相場のワナ」「第2のポイント 第2のポイント 成功する10%の勝組投資家と損を続ける90%のカモ投資家の見分け方」の解説を行ないましたが、今回は「トレード試験」問題の解答と解説をここに公開いたします。お読み頂きあなたのトレード活動にお役立て下さい。

トレード試験の解説

第1問 下図のローソク足の組み合わせの名称は何といますか？



(解説)

これは「強気の包み足」といいます。
底値圏で陰線が出現した翌日、それを包み込むような大きな陽線が現れた場合や、押し目を形成している途上でこの足型が出現すると買いのサイン点灯となります。
大きく包めば包むほど買いの重要な決め手となります。



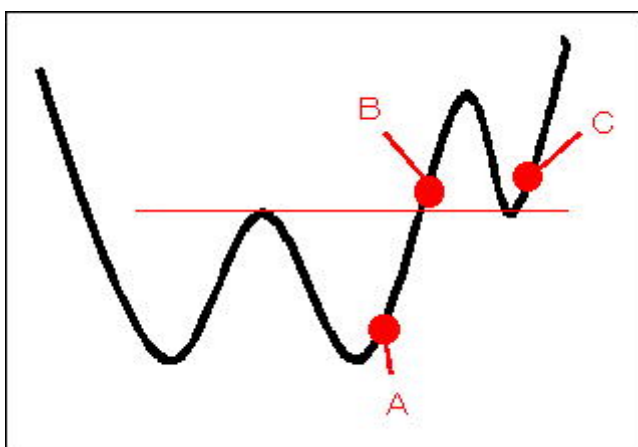
左のチャートは極端な例ですが、50日移動平均線を下抜いたと思った翌日に「強気の包み足」が出現しています。前日は上ヒゲをつけて売り込まれており、売り方が勢いを増していたのですが、その上ヒゲの高値を上抜いて戻してきたために売り方が慌てて買い戻したため巨大な陽線が出現しました。

第2問 ネックラインの上抜きでエントリーする場合、
下図の中でエントリーポイントはa, b, cのどこになりますか？



(解説)

C点が正解です。
下降トレンドから上昇トレンドへの反転パターンとしてメジャーなのが、底値圏で2つの底を形成するのがダブルボトムです。下の図を使って説明しましょう。



ダブルボトムは下降トレンドで安値を付けてから株価が上昇しますが、再び下降を始めます。しかしその下降は直前の安値とほぼ同じ水準で下げ止まります。その後、再度株価は上昇を開始し、直前の高値を上抜いた時点Bでダブルボトムが完成し、上昇トレンド入りが確認されます。

一般的には①直前の安値を下抜けずに反転上昇を開始したA点、②直前の高値を上抜いたB点で買いでエントリーすることになります。しかし図にあるように売りに押されてプルバックが発生することがあります。そのため慎重なトレーダーはプルバックが終了し、再び株価が上昇を始めたのを確認したC点でエントリーすることもあります。

上図で赤い横線がネックラインと呼ばれるラインですが、この質問の「ネックラインの上抜きでエントリーする場合」というのは、赤いラインを上抜いているBの地点ということです。(問題の図ではC点です。)

第3問下図のようなチャートパターンを何とといいますか？

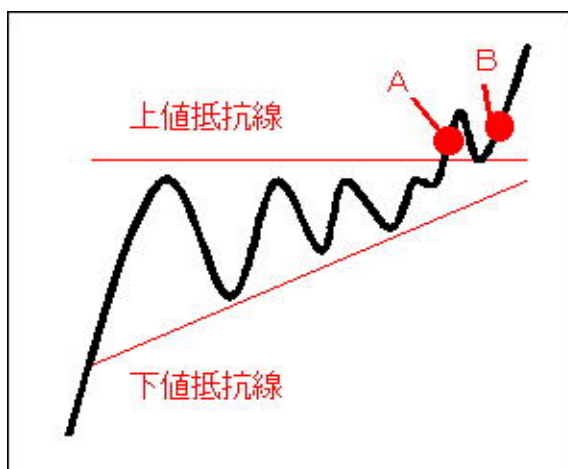


(解説)

アセンディングトライアングル(上昇三角形)といいます。

下の図を見てください。アセンディングトライアングルは上辺が水平で下辺が上に向かっていく三角形のことで、

これは買い勢力が徐々に力を増し下値を切り上げ、対抗する売り勢力は防戦を迫られている、と読むことができるため、一般的にこのパターンは上昇トレンドにおける強気の継続パターンと言われます。



また、ある価格で大量の売り注文が指し値で置かれている、とみることもできますが、その場合にはこの売り物がすべて吸収された時点で、上方への強いブレイクアウトが発生する可能性が高くなります。買いのエントリーポイントはA点またはB点になります。

第4問 下図の a、b、c の中で押し目買いのエントリーポイントはどこになりますか？その場合のロスカットポイントと第一目標株価は(あ)(い)(う)(え)のどこになりますか？



(解説)

押し目買いのポイントはb点です。
ロスカットポイントはb点の前日の最安値の下です。

第一目標株価(ターゲットプライス)は直近の高値の(い)の水準です。

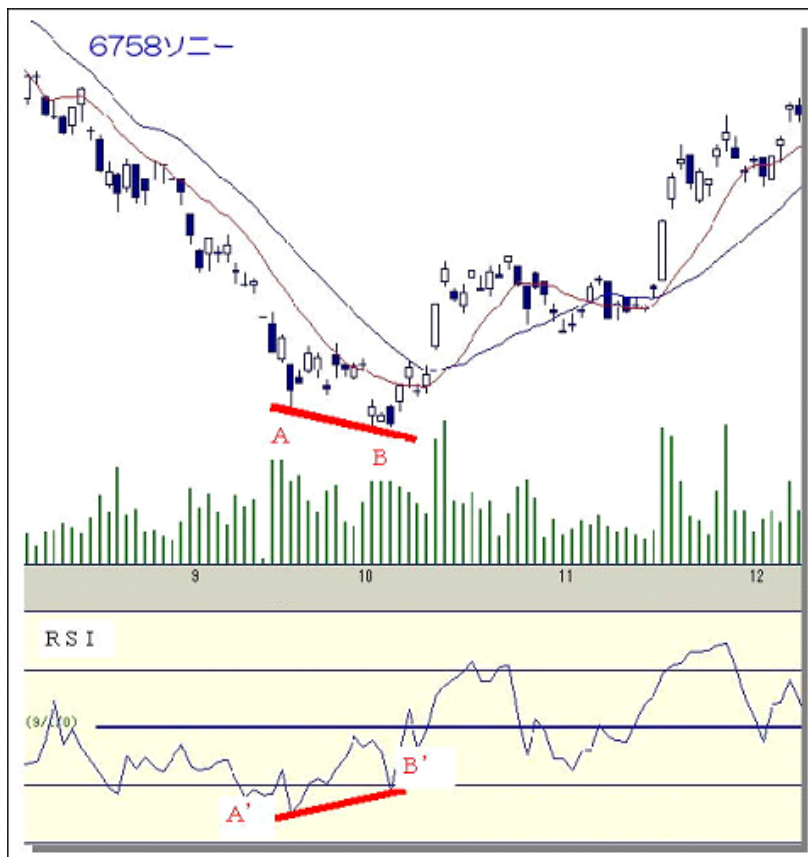
第5問 下図の下段の線はRSIを表しています。株価は下げているのに、RSIは上昇しています。こういう現象を何と言いますか？また、買いポイントとなる強気の包み足を見つけてください。



(解説)

株価が底値圏で推移している時期に、株価は直近の安値を更新し新安値をつけたにも関わらず、RSIが直近の安値の時よりも高い数値を示している場合「強気の逆行現象(ダイバージェンシー)」と呼ばれ、RSIの25%以下の水準でこういう動きが現れたら、反転上昇が近いサインといわれています。

次ページに実例を掲載します。



株価は直近の安値を更新し新安値をつけています。下段のRSIが直近の安値の時よりも高い数値を示しているのが分かります。

これが「強気の逆行現象（ダイバージェンス）」です。

前ページチャートでの「強気の包み足」は第1問で解説したので分かりますね。右から6本目のローソク足です。

第6問 下図のようなローソク足の組み合わせを何と言いますか？

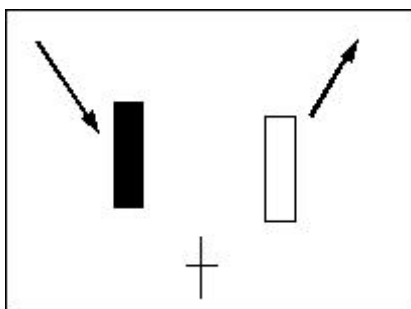


(解説)

底値圏で陰線が出現した翌日、それより下に寄り付いて、十字星が現れた場合です。

これを「捨子線 (すてごせん)」といいます。

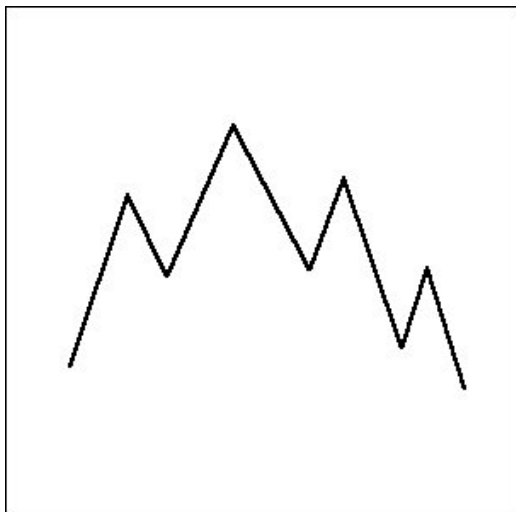
明けの明星と同様に売り手が頑張る勢いをつけて下寄りしたのに、買いが入り、十字線を形成します。



そして、翌日、売り手が慌てて買い戻し陽線となりました。この足型も上昇転換を表す足型の代表です。

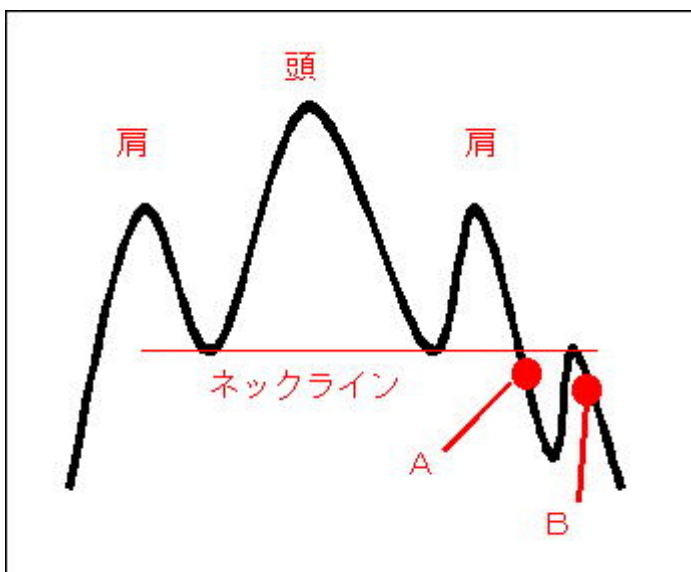
左は「捨子線 (すてごせん)」部分の拡大図です。

第 7 問 下図はヘッドアンドショルダーの株価の動きを表していますが、空売りのエントリーポイントを 2 箇所挙げてください。



(解説)

反転パターンの中で最も有名で最も信頼できると認知されているパターンがヘッドアンドショルダーです。
下図を見て下さい。



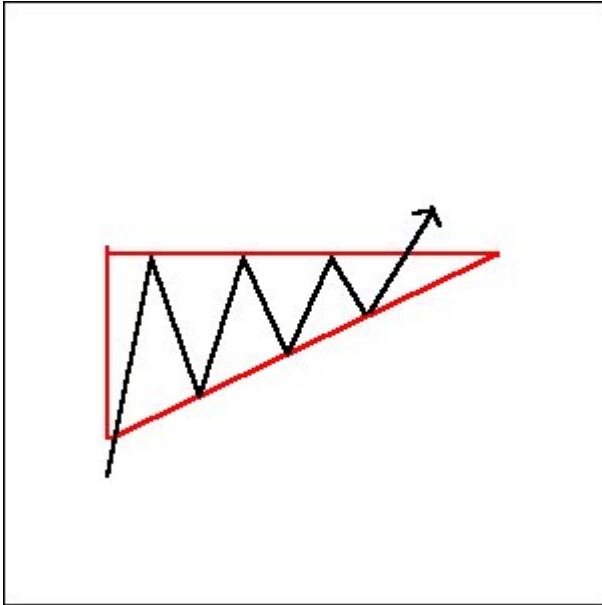
図のように 3 つの山があつて真ん中の山が 1 番高くなっています。この真ん中の山を頭に見立てて両側の山を肩に見立てているところからこの名前がついています。日本では三尊とも呼ばれています。

左の肩と頭の間にある底と、右の肩と頭の間にある底とを結んだラインをネックラインと言いますが、この

ネックラインを下抜いた A 点を確認した時点で、上昇トレンドが終了し下降トレンドに入ったと認識されるのが一般的です。

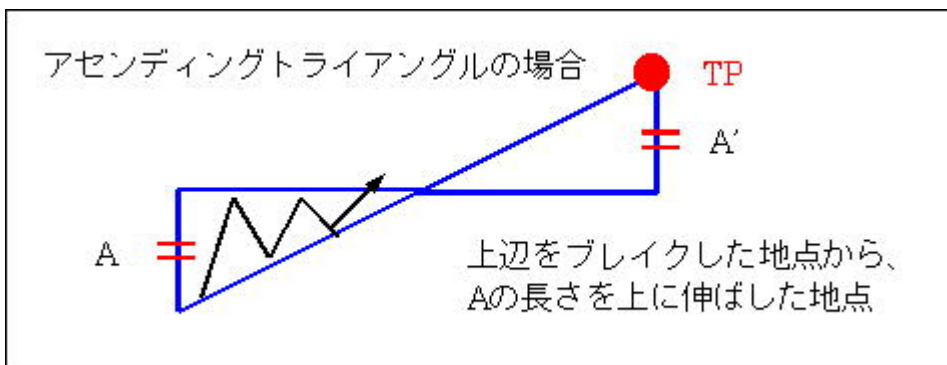
通常このネックラインを下抜いた地点 A で空売りにエントリーするというのが定石ですが、この時点でエントリーするとプルバックと呼ばれるネックラインに向かう買い戻しが入り、ロスカットの恐怖におびえることがあります。そのため慎重なトレーダーはネックラインから再び株価が下降を開始するのを確認した B 点でエントリーすることもあります。

第 8 問 下図のようにアセンディングトライアングルのレジスタンスを株価がブレイクアウトした場合、目標株価をどこにおきますか？



(解説)

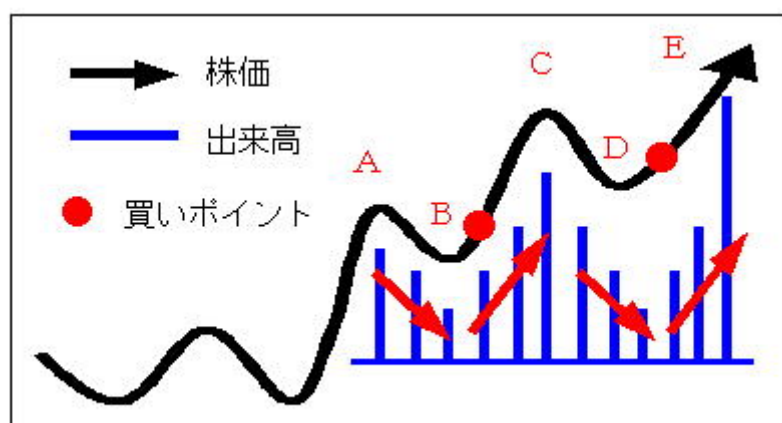
アセンディングトライアングルは下図の「TP」地点が一般的には目標株価になります。



第9問 上昇銘柄が押し目を形成しているときに、押し目の形成につれて出来高が増えている銘柄と、押し目の形成につれて出来高が減っている銘柄のどちらをあなたは買いますか？またその理由を教えてください。

(解説)

押し目形成時における出来高の理想的な推移は下図のようになります。図では



AからBにかけて株価の「押し」が入っています。これは上昇以前から買っていたトレーダーたちが利益確定で保有株を売るため、「どうせすぐにこの銘柄は値を下げるさ。」と思っている空売りトレー

ダーたちの空売りによって、「押し」が生まれるわけです。この時に多くのトレーダーが「この銘柄はこの株価が精一杯で、これ以上は上がらないだろう。」と思っていたなら、大勢の人が利益確定をするはずですし、空売りで儲けようとする人たちも多いはずですから株価が下がるときに出来高が増えるはず

でも図では株価が下がっているときに出来高は減っていますね。これは「この銘柄はこの株価が精一杯で、これ以上は上がらないだろう。」と思っている人が少ない、または「この銘柄はまだ上がるはずだから、利益確定はまだしないぞ。もう少し持っているぞ。」と思っているトレーダーが多い、ということを示しています。または「この銘柄はここから下げそうだから、空売りして儲けてやれ！」と思っている空売りトレーダーが少ないということも示しています。いずれにせよ積極的に売るトレーダーは少ないと言えます。

そしてもう一つ特徴的なのが上昇トレンド継続中は全体としては出来高は増加傾向にあるということです。図で見ると新高根A、C、Eをつけるたびに出来高は増加しています。これはこの銘柄の強さに気づいたトレーダー達が大量参加してきていることを示しています。これがこのフェイズでの理想的な出来高の推移となります。

第10問 資金管理の観点から考えて、一回のトレードに対して許容できる損失額は自己資金の何パーセントまででしょうか？

(解説)

投資元金の数十%の損失を被り、さらにナンピン買いまでして平気な顔をしている短期トレーダーがいますが、それでは相場で生き残ることはできません。プロやセミプロは数%の損失が出た時点でロスカットを行います。

ロスカットさえきっちりできていれば損失が数十%に拡大するなどということは絶対にありえない話です。

では自己資金の何パーセントを超えた損失が出た場合にロスカットを行うべきなのでしょうか。言い換えれば1回のトレードに対して投資元金の何パーセントを危険にさらしてもよいのでしょうか。(これを1トレードリスクといいます)

株式投資の専門書では1%から3%まで、その範囲に関する意見は分かれています。当会では1トレードリスクは自己資金の1.5%から2%までと考えています。

以上、ここまでトレード試験の解説を行ってきましたが、いかがでしたか？

トレードには本当に覚える必要のあること2割と、覚えてもあまり意味のないことが8割があります。本当に覚える必要のある2割が結果の8割をもたらします。これはパレートの法則ですね。

しかし、実はトレードにとって本当に重要な2割に集中している個人投資家はとても少ないのです。多くの個人投資家は、無駄な8割の方に気を取られて、多くの時間とお金を費やしているのが現状です。

あなただけはトレードに本当に必要なことに集中することにより、短期間でトレードの達人になることを目指してください。

次回のレポート（明後日配信予定）では次の事柄をあなたに説明します。

短期トレードを成功させる4つのポイント その3

第3のポイント 成功する個人投資家の短期売買戦略

第4のポイント 成功する個人投資家の手法

次回のレポートもあなたの投資活動の参考にしてください。

発行：

個人投資家のための日本株短期売買研究会

※第一回目のレポートを読み忘れた方は下記からどうぞ。

『短期トレードを成功させる4つのポイント』第一回目レポート

<http://www.1advantage.info/special1.html>

日本株短期売買研究会

<http://www.1advantage.info/cd.html>

<http://www.1advantage.info/dt/daytrade.html>

(注意)

当ページに含まれる内容、情報は著作権法によって保護されています。日本株短期売買研究会の事前許可を得ずして、当ホームページの内容、情報の一部または全部を複製および転載して、出版、講演活動および電子メディア等による配信等に使用することを禁じます。

株式売買は大きな損失をもたらす可能性があり、本書に掲載の手法や理論がすべての人に適したものではないかもしれないということを、ご承知ください。最終的な投資判断は必ずご自身にてお願い致します。

本書内でご紹介している銘柄は、「推奨銘柄」ではありません。あくまでも、トレード技術を習得するための「材料・教材用の銘柄」です。

本書に掲載の情報は、投資の勧誘を目的としたものではありません。

当会及び当会会員は誤った、また不完全な情報により発生するいかなる損失についても、責任を負うものではありません。本書記載の方法やテクニックは利益をもたらすことを、保証あるいは示唆するものではありません。本書掲載の過去の事例は、必ずしもこれから先の結果を示すものでも、予測するものでもありません。

使用または表示されるトレード手法例やトレード理論は、トレードの教育のためであり、特定の銘柄の売買を勧誘するものではありません。本書で使用されているトレード例は、トレード手法やトレード理論をわかりやすく説明するために例示したものであり、必ずしも実際に行われたものではないものが混在しています。本書の情報は、表示されているような利益を保証したり損失が起こるといふ保証をするものではありません。

文中や説明で表示されている場合も、利益の達成を保証するものではありません。当会や本書の執筆者は書かれている情報により、利益、損失、期待する結果などを、読者に保証するものではありません。

読者は、取引による損失を含むすべての危険を、自己の責任として負うものとします。本書の情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。当該情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当会及び情報提供者は一切の責任を負いかねます。ホームページに記載されている内容の著作権は、日本株短期売買研究会及び日本株短期売買研究会の代表に帰属します。当該掲載情報の転用、複製、販売等の一切を固く禁じています。